鳥坂城の南西約2kmに飯角とよ ばれる集落があります。板額御前が ここで生まれたので飯角御前と呼 ばれていたのが音読みで、「はんが く」、つまり板額、坂額の文字に置き かえられたと言われています。 MAP P,5

板額御前が最後に活躍した 城氏の城であり、後に中条氏が 再興しました。

現在の姿は戦国時代末期の ものです。ただ、山頂の堀切りで 12世紀代の白磁が拾われており、 この場所が城氏の時代から使わ れていたことがわかっています。 MAP|P,6-A



建仁元年の鳥坂城の戦いから800年目を記念し 2001年に「板額御前奮戦800年祭」がおこなわれまし た。銅像はそのとき建てられたもので、JR中条駅前 広場に鳥坂山をのぞむ角度に配置されています。



鳥坂城の戦いで破れた資盛が松の木を倒して胎内川に 橋を架け、出羽国に走ったことから、この橋を小太郎(資 盛)が橋と呼んでいたものが訛って、樽ケ橋になったという 伝説が地元に伝わっています。 MAP P,6-A

額御前はなぜ

の妻になったのっ

額の歴



と越後城氏

板額御前 の逸話

板額御前と越後城氏 佐々木三郎盛綱と佐々木加地氏 城家初代 平繁成、秋田(出羽)城

介に任命される。 II世紀後半奥山荘成立と推定 秀綱(後の盛綱)、近江国(滋賀県)で

誕生 平治の乱

(平氏が全盛期を迎える。平氏の城一族 が阿賀北地域を開発する。) 源頼朝に仕える。16才で元服し、秀綱

から盛綱に改名 越後国奥山荘にて板額御前誕生

1180頃 城資永に源氏追討の宣旨。 盛綱、石橋山で頼朝とともに挙兵 資永急死、跡を継いだ城長茂

信州横田河原合戦で木曽義仲に 敗れる。 盛綱、宇治川・一ノ谷・藤戸の合戦に 参戦し、源氏が勝利。盛綱は藤戸の戦

い(岡山県倉敷市)で活躍 壇ノ浦の戦いで源氏が勝利し、平氏滅亡。 源頼朝が鎌倉で幕府を開く。

幕府の囚人となり梶原景時にあずけ られていた城長茂、頼朝に面会する。

城長茂が幕府軍に加わり奥州合戦

1050

1150

1159

1166

1181

1184

1185

1188

1189

1190

1192

1195

1199

1200

1201

1223

1423頃

1581

1587

1598

前

越後城氏

0

歴

史

源頼朝が守護・地頭を置く。

に従軍する。 盛綱、越後国守護・加地荘地頭に任命 三浦和田一族の和田宗美が奥山 される。 荘地頭に補任される。この頃、城長 茂は御家人となっている。

頼朝の叔父、護念上人が加地荘に入 り、菅谷不動尊を開く。

源頼朝没

盛綱、頼朝と護念上人の面会を仲介

城氏を庇護した梶原景時滅亡 鎌倉幕府が盛綱に城資盛の討伐を命じる。 城長茂、京都で挙兵 城資盛、越後で挙兵

鳥坂城の戦いで幕府軍が勝利し、城氏 滅亡

板額、幕府軍の捕虜となり、将軍の 前に引き据えられる。

板額、浅利与一義成の妻となる。

城氏滅亡後、三浦和田一族が奥山 荘を支配する。

盛綱の子、信実は加地荘に定着し、 佐々木加地氏を名乗る。

盛綱(72才)没

三浦和田氏は「中条氏」・「黒川氏」・ 「金山氏」・「築地氏」などに別れる。

発田市域を支配 上杉景勝側近の中条景泰が越中 織田信長と連携した「加地氏」・「新発田 氏」は「上杉景勝」・「直江兼続」と抗争 魚津城で討ち死に。

築地氏、中条家名代として新発田 氏と戦う。

を離れる。

上杉家の会津国替えに従い、鎌倉 期以降400年にわたり奥山荘を支 配していた中条・黒川氏がこの地 加治城、五十公野城、新発田城が落城 (後に、「竹俣氏」は上杉氏とともに会津 へ移る。)

佐々木加地氏は、「加地氏」・「新発田

氏」・「竹俣氏」などに別れ、現在の新

(新発田に溝口氏が加賀国大聖寺か ら入封。その後、新発田に城下町を構 えた溝口氏は江戸末期まで外様大名 として栄える。)

加 地 氏

史

平安時

倉時

室町時代

安土桃山時代

治城跡(市指定文化財)

盛綱が築き、その一族が本拠とした山 城。標高165mの要害山の地形を利用 し、本丸を囲む土塁や空堀が残っています。 MAPIP,5-E



要害山の麓にある盛 綱が建立した神社。藤戸 合戦の前に、命を奪った 漁師の供養のために建 立したといわれています。 MAP|P,5-E





1190年、源頼朝の叔父、護念上人が創建した真言宗醍醐派の 寺院。日本三大不動尊の一つで、目の病にご利益があるといわれ ています。 MAP|P,5-D



佐々木加地氏の菩提寺。盛綱の子孫である加地春 綱が屋敷を寄進し、現在の地に移転。今も加地氏時 代の館を囲んでいた土塁が残っています。MAPIP,5-E

護念上人

護念上人は、頼朝と盛綱の叔父にあたります。1159年の平治の乱で源氏が敗れた後、僧侶になり、戦禍を逃 れるため不動明王像の御頭を納めた笈(仏具などを納める箱)を背負い、諸国を行脚。「笈」を掛けて休んだ松 において、菅谷を永住の地と悟り、不動明王像を安置する菅谷寺を創建しました。 1195年、盛綱は頼朝と護念上人の面会を仲介。上人は祈祷で頼朝の大姫の病を治し、頼朝を喜ばせたといわ

佐々木三郎盛綱の逸話 七葉の松の伝説

滕戸合戦